

地図帳を楽しく使おう

1. 地名探しゲームをしよう

<やり方>いくつかのヒントから地図帳の中の地名を探すゲームです。地名を見つけたら挙手します。ポイントは、指で地名を押さえさせることです。こうすると隣同士で確認させることもできるし、教師もすぐに確認できます。クラスの半分ぐらいまでの挙手の順番を発表すると、意欲付けが図れます。その後、正しく見つけられたか全員で確認をします。

地図帳の使い方を身に付けさせるときは、地図帳のページ・縦の座標・横の座標・地名を言い、その地名を探させます。例えば、「38ページ・エ・4・八王子」という具合です。これを繰り返すうちに、地図帳に慣れてきます。

地図帳に慣れてきたら、今度はその土地の特徴から、地名を探させます。地方・名産品・行事など（例えば「青森」なら、「東北地方・りんご・ねぶた祭り」）を知らせ、該当する都道府県を探させるのです。

<いつ行うか>授業の導入で行うのがよいでしょう。また、授業中、地名が出てきたら突然「地図帳を出しなさい」と指示して始める方法もあります。ポイントは繰り返し継続して行うことです。

<だれがするか>まずは、教師が出題します。やり方をマスターしたら、日直、列の先頭、社会科係など、児童に出題させるのもよいでしょう。

<出題する地名の選び方>「関東地方から出題します」「地図帳36ページから出題します」というふうに最初は地域を限定し、都道府県の県庁所在地や人口の多い都市、教科書に載っている所などを中心に出题します。また、庄内平野の学習をしている時は東北地方、自動車の学習をしている時は愛知県というように授業内容とリンクさせるとよいでしょう。

さらに、児童が慣れてきたら、山、川、湖、湾などの名前まで、出題内容を広げてみましょう。

2. 疑似旅行（バーチャルツアー）を楽しもう

<準備>事前にゴールを決めておきましょう。スタートは自分の学校の最寄り駅にします。そうすることで実際の旅行のイメージが湧きやすくなります。

<やり方>教師が行います。教師の演技力の見せどころです。「ようこそ〇〇観光客へ。今日は、美しい滝を見に行きましょう。では、地図帳の〇ページを開きましょう。まず、学校から電車に乗って東京方面に進みます。途中でJRの常磐線に乗り換えます。常磐線、見つけられましたか。常磐線に乗って北へ進んでいきます。あっ、大きな川ですね。そう、利根川です。さらに進みます。あれっ！海かな？ いや違います。すごく大きな湖です。日本で2番目に大きい湖、霞ヶ浦が右手に見えます。電車はさらに進みます。いよいよ水戸に着きました。ここには日本三大庭園のひとつ、偕楽園があります。梅の咲く頃にまた来ましょう。さあ、今度はJRを乗り換えて水郡線に乗りましょう。だんだん山の中に入って行きますよ。いよいよ今日の終点が見えてきました。ここは、日本三滝のひとつ、袋田の滝です。真冬には水が全部、凍ってしまうそうですよ。今日の旅行はこれで終わりです。またのご利用をお願いします」社会科だけでなく宿泊学習、修学旅行などの事前指導でも活用できます。

▶ おすすめの本 『旅に出たくなる地図 日本』(帝国書院発行)

祭りや郷土料理など、テーマごとの地図が魅力的で、地図の中にも名所がイラスト付きで掲載されています。疑似旅行にぴったりの本です。